

大阪・関西万博きょうと関連予算



万博と京都を結ぶ

出典：京都府令和7年度当初予算案 知事会見資料（抜粋）

大阪・関西万博フラッグシップ・アクション

6.5億円規模

京都駅周辺エリアまるごとゲートウェイ事業費

京都の文化や芸術を感じられるゲートウェイとして、情報発信やイベントを実施

159百万円規模

きょうとまるごとお茶の博覧会開催費

茶人や茶商、生産者、茶器の職人などが一緒になって、京都の茶文化を発信

82百万円規模

和食と世界の食サミット開催事業費

海外と和食の料理人によるシンポジウムや「京都 食の博覧会」などを開催

52百万円規模

「KYOTO地球環境の殿堂」事業費

殿堂入り者と若者による国際会議などを通じ、人と地球のあるべき姿を発信

13百万円規模

グローバル・スタートアップ・エコシステム構築事業費

国内最大級のIVSと併せて、未来へのレガシーとして、「IVS YOUTH」などを開催

33百万円規模

京都の川巡り事業費	国・地域・民間事業者と連携し、淀川舟運の運航に合わせてフェスティバルを開催	11百万円規模
けいはんな万博2025 開催事業費	「未来」を提案する4分野のフェスティバルや国際会議（賢人会議）などを開催	200百万円規模
「Music Fusion in Kyoto」音楽祭事業費	誰もが親しみやすい文化である音楽の魅力を府内市町村と連携して発信	94百万円規模
LIGHT CYCLES KYOTO開催費	府立植物園において、メディアアート・プロジェクト「LIGHT CYCLES KYOTO」を開催	5百万円規模
京都国際マンガ・アニメフェアの開催	西日本最大規模のマンガ・アニメの総合見本市「京都国際マンガ・アニメフェア」を開催	-
“ほんまもん”を伝える 「食の京都」レストラン スペシャルの開催	府域の料亭やレストランが期間限定メニューを特別価格で提供するキャンペーンを実施	1百万円規模

万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」のもと、環境先進地・京都を世界に発信

ポイント

拡 国際会議

- ・令和7年2月。京都議定書発効から20周年を迎える
- ・COP3開催の地で、これまでに36名・1団体を表彰



○地球環境保全に多大な功績を残した過去の殿堂入り者と若者等が
「気候変動」や「生物・文化多様性」のテーマで議論を行う国際会議(9/20)を開催
⇒ 未来への提言を通じ、文化と自然(いのち)が共存する地球の未来像を世界に発信

○開会セレモニーで生け花や和楽器によるパフォーマンスを実施

新 未来会議

○「国際会議(9月)」に加え、新たに「未来会議(4～9月)」を開催
⇒ 国内外の高校生・大学生が京都の文化と自然環境との関係についてワークショップを通じて探究

○万博「EXPO KYOTO Meeting」内でキックオフイベントを開催



新

京都駅周辺エリアまるごとゲートウェイ事業費

府市連携

1.5億円規模

駅周辺を京都らしさ溢れる玄関口として、府域への誘客を推進

ポイント

京都駅

情報発信拠点を設置し、伝統芸能の実演などと一緒に展開(4月中旬～)

梅小路

「もうひとつの京都」ラッピングトレイン・バスの特別展示と
府内各地の観光PRを行う「京都まるごと博覧会」(4/4～8)を開催

駅北

東西本願寺を中心に工芸美術や日本画等の作家による展覧会を実施(5月～)



新

きょうとまるごとお茶の博覧会開催費

8千万円規模

万博を契機に京都を訪れる国内外の人々に京都の茶文化を発信

ポイント

○お茶の生産者や茶商等と一緒に茶会や体験イベントを開催(北野天満宮等)(4月～)

○府内の小中高生と万博参加国でお茶を通じた国際交流を実施

○お茶博の締めくくりとして北野天満宮で大茶会を開催(10/11-13)



新

和食と世界の食サミット開催事業費

5千万円規模

世界の食文化との交流により、将来を担う人材の育成や新たな誘客を促進

○万博会場で海外と和食の料理人によるシンポジウムを開催(6月予定)

○和食と世界の食を味わえる「京都 食の博覧会」を開催(5月予定)



新

京都の川巡り事業費

1千万円規模

淀川舟運の活性化を図るため、にぎわい創出イベントを開催

○舟運の運行に併せて地域のにぎわい創出イベントを実施(5月予定)
⇒ 伏見港、背割堤船着場(八幡市)などの4エリアで開催



新

「けいはんな万博2025」開催事業費

2.0億円規模

各種イベントや路面コンテナ、ドローンショー等の多彩なイベントを開催

拡

Music Fusion in Kyoto音楽祭事業費

9千万円規模

万博を契機に室内楽コンサート等を府域で実施し、音楽が日常を彩る京都を創出